



全国水平社創立100年

第53回特別展

# 柏原の三青年



## 彼らの熱と光

部落差別の解消をめざした全国水平社—その創立の中心にいた「柏原の三青年」阪本清一郎・西光万吉・駒井喜作の生涯を追いながら、水平社が求めた人間の尊厳・自由・平等について考えます。

2022 7.23<sup>SAT</sup> → 2022 9.25<sup>SUN</sup> 9:00~17:00

※休館日は第4月曜日を除く月曜日、月曜日が祝日の場合は、翌日。  
ただし、8月の休館日は13~15日。

入場料 大人 200円 / 高校・大学生 100円 (中学生以下・65歳以上等は無料)  
会場 福岡県人権啓発情報センター  
春日市原町三丁目1番7号 クローバープラザ7F

主催：福岡県、公益財団法人福岡県人権啓発情報センター  
後援：福岡県教育委員会、福岡県人権啓発活動ネットワーク協議会  
企画協力：水平社博物館（奈良県御所市）

# 「柏原の三青年」 彼らの熱と光

全国水平社が1922年3月3日に創立してから、100年の歳月が過ぎました。全国水平社は部落差別の解消をめざす自主的運動団体として組織され、その理念と運動はさまざまな反差別運動に影響を与えました。

しかしながら、今なお部落差別は存在し、インターネット上での被差別部落の所在地情報の拡散や、被差別部落にかかわりのある人びとへの誹謗中傷などの問題が後を絶ちません。

第53回特別展では全国水平社創立の中心にいた阪本清一郎・西光万吉・駒井喜作の生涯を追いながら、水平社が求めた人間の尊厳・自由・平等について理解を深め、変容、深刻化する部落問題について考える機会とします。

「柏原の三青年～彼らの熱と光～」は、2021年5月に水平社博物館(奈良県御所市)で開催されました。今回、水平社博物館の全面的なご協力を得て、ここ福岡で開催します。100年の節目に、多くの皆さまにご覧いただければ幸いです。

展示構成

第53回特別展「柏原の三青年」

プロローグ

部落問題とは

- 1 | 柏原に生まれて
- 2 | 差別との闘いに向けて
- 3 | 差別との闘い、水平社創立
- 4 | 糺弾への想い
- 5 | 「柏原の三青年」の思い出

関連展示

全九州水平社の歩み



「水平社」という組織名称の考案者。

さかもと せいいちろう  
**阪本 清一郎**  
(1892~1987)

小学校時代に差別を知るも、それに負けない姿勢を貫いた。幼いころから仲が良かった西光万吉とは、上京後も下宿をともにしていたが、西光万吉の病氣もあり帰郷。セレベス島への移住を計画するも挫折。このころから生まれ故郷を差別がない地にするため、「燕会」を結成し、地域の生活改善などに努める。1922年、全国水平社創立に参加。



水平社宣言の起草者及び水平社旗のデザインの考案者。

さいこう まんきち  
**西光 万吉**  
(1895~1970)

学校時代から差別に悩み、学校を転々とし画家志望となるも、そこでも差別されるのではという恐怖に苛まれる。その後、上京先で病氣になり阪本清一郎とともに帰郷。佐野学が1921年に発表した「特殊部落民解放論」に影響を受け、全国水平社創立に向けた活動に奔走した。



全国水平社創立者の一人。「全国水平社創立宣言」を朗読。

こまい きさく  
**駒井 喜作**  
(1897~1945)

弁護士を目指していたが、差別のため学校を中退。奈良連隊に入隊するも、ここでも厳しい差別を受けた。除隊後、阪本清一郎、西光万吉らと「燕会」を結成し、地域の生活改善などの実践活動を行った。全国水平社創立へと進む中、水平社創立事務所の看板は駒井の自宅に掲げられた。

(参考文献)『部落問題辞典』部落解放研究所・編 (写真提供(3点とも):水平社博物館)



交通のご案内

クローバープラザ 7F (福岡県人権啓発情報センター)  
福岡県春日市原町三丁目1番7号

- ▶ JR 鹿児島本線「春日」駅から 90m
- ▶ 西鉄天神大牟田線「春日原」駅から 720m

ご来場は公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

公益財団法人  
福岡県人権啓発情報センター  
TEL.092-584-1271

<https://www.fukuokaken-jinken.or.jp/>



みんなの人権110番

TEL.0570-003-110

最寄りの法務局、  
地方法務局につながります。

ひとりで  
悩まず  
ご相談  
ください

ふくおか人権ホットライン

TEL.092-724-2644

毎月第4金曜日  
15時から18時まで

弁護士が  
無料で  
法律相談に  
応じます